

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	良く なっている	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・店頭の取扱額が前年比約120%と好調であった。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・当施設の利用乗降客数は1月26日時点で前年比130.1%となっており、1月としては過去最高の利用乗降客数になることが確定したほどの入込状況にある。
	やや良く なっている	一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・年末の消費の反動もあつて、客の動きがやや鈍い。ただ、相変わらず高額商材が売れているということもあり、売上はそれなりの金額をキープしている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・外国人観光客による売上が前年比152%と好調を継続しているほか、来客数が前年比102%と好調を維持している。月半ばに停滞した売上も下旬に入ってから回復傾向にあり、定価品、バーゲン品とも前年を上回っている。
		百貨店（担当者）	来客数の動き	・積極的に景気が上向きにあるとまではいいづらいものの、3か月前との比較では改善している。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・気温が平年並みとなり、これまでの温暖、少雪の状況がみられなくなってきたことで、防寒衣料、雑貨商材を中心に多少改善の傾向がみられる。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・灯油やガソリンの価格が低下していることに加え、電気料金が下がったこともあり、客の節約意識がやや弱くなっている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・1月の売上は前年比105%であった。商材の単品管理に加えて、販促の強化により、1月も今売れる商材を他店より多く売ることができている。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・ガソリンや灯油の価格が低下していることもあり、前年とは異なり、新春初売りなどでは多くの市民や観光客が街を歩き交っている。外国人観光客の入込も前年よりも増加している。当店の売上も前年を上回った。また、ホテル展示会の催事も好調であった。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・依然として必要な物しか買わないという客の状況は変わらないが、客の視点が質の良い商材を志向する方向に移ってきており、客単価が前年と比べて8%の伸びとなった。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・待望の新型車が発表され、新車の受注が好調に転じてきた。ただし、中古車は前年の状況から変化がみられず、受注が伸びてくるのはこの先のこととみている。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・中国、東南アジア、オーストラリアを始めとした海外からの旅行客が増えている。特に、中華圏からの旅行客は価格が高くて、質の良い商材を求める傾向があるため、当店の客単価も上昇しており、売上増加につながっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・中国本土を始めとする近隣アジアからの観光客、国内からの個人客、団体客のいずれも好調に推移している。需要を喚起するようなスポーツ大会イベントがあったことも追い風となった。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・高額商材の受注が好調である。
	タクシー運転手	販売量の動き	・好調であった12月の売上をそのまま維持できている。夜の会合なども増加している。	
	変わらない	商店街（代表者）	単価の動き	・客の財布のひもが固く、買上単価がなかなか上がってこない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・1月は豪雪の影響により、道路状況が悪かったため、高齢者の外出機会が減少するというマイナス要因があった。ただ、全体的なトレンドには変化がみられない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の声としては、変化が感じられないという意見が大半である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・1月に入り、プレミアム付商品券の効果が一部の業種や商店街内の百貨店の一部店舗などに表れている。ただし、プレミアム付商品券の使用期間が1月までであるにもかかわらず、売上の伸びは鈍重であった。また、12月に売上を伸ばした夜型飲食店は、客の夜間の出控えもあり、今一つであった。当商店街内の客足も例年より途絶えがちであった。

商店街（代表者）	販売量の動き	・新年の初売りは好スタートだったが、曜日並びの関係から前年を下回ったところが多かった。また、積雪の少ない状況が続いていることから、客の外出機会の増加に伴う売上増を期待したが、氷点下の日が多かったこともあり、伸び悩んだ。当地のプレミアム付商品券は1月末までが使用期間であり、これまで順調に使われているため、今後の動向に不安がある。
スーパー（店長）	販売量の動き	・1月は来客数が前年比97%であったのに対して、売上が前年比93%、販売量が前年比92%にとどまった。販売量は12月に続いて伸びがみられない状況であり、3か月前と比較しても10%弱落ち込んでいる。
スーパー（店長）	競争相手の様子	・どの競争店も前年実績を割り込んでいる状況にある。比較的好調な店舗は改装などを行ったところである。
スーパー（店長）	来客数の動き	・正月は来客数、売上ともに伸びたが、それ以降は消費動向が上向いてこない。衣食住のいずれの部門も前年の来客数を下回っている。食品部門は比較的安定した売上で推移しているが、特に衣料品部門については来客数、売上ともに回復がみられない状況にある。
スーパー（役員）	来客数の動き	・ここ数か月、商品単価の上昇に支えられ、客単価が前年から1%強上昇している状況に変化はみられないが、大型店の出店により客が分散していることに加えて、雪害などにより客の移動範囲が狭くなっていることで来客数が減少しており、若干ではあるが売上も減少している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は引き続き上昇傾向にあるが、来客数の回復が遅れている。他業態の動向などから、除雪作業の減少、公共工事の減少、漁業の不振が影響しているとみられる。
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・単価の高い商材の動きが悪い。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・初売りは例年以上の盛り上がりがあった。しかし、月後半になり、来客数が激減した。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・思うように販売量が伸びてこない状況にある。
乗用車販売店（従業員）	競争相手の様子	・3月に決算期を迎える企業が多いため、1～3月は販売量の伸びる時期であるが、例年以上の伸びがみられるわけではない。また、景気が上向いているというわけでもないため、全体としては変わらない。
乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・ガソリン価格がやや上昇に転じている。また、新年会などで外出する機会の多い時期であるが、早く帰宅する人が多く、景気が良いとは感じられない。
自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・雪不足の影響により冬タイヤを履きつづるという客が多く、買い控えがみられることで冬の主力商品が売れない状況にある。その一方で、新車販売が好調なことで中古車にも動きがみられ、カー用品全般に買物客が増えている。少額の買物が多いが、当店の来客数も微増している。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・原油価格の低下が続いていることで石油製品価格が大幅に下落しており、販売量が堅調に推移している。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・年末から年始にかけて、買物をしている一般市民の様子をみていたが、買物袋をたくさん持って歩いている人がやや少なかった。年末も年始も一時的には消費が伸びるが、後が続かない状況がうかがえる。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・1月後半は降雪などの影響で来客数がやや減少したが、売上は前年並みであった。市内の百貨店で行われる人気のチーズの催事が史上最高の売上になったことの影響なのか、催事の開催期間中は当店の来客数が伸びなかった。また、他店で、ランチが半額になるクーポン付きの書籍を利用する場面を初めて目撃したが、経営者らしき人が会計時に客と目を合わせないようにしており、苦惱さがうかがえた。
観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・これまでと比べて外国人観光客の伸びが鈍化しているため、来客数に大きな変化がみられない。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・販売量だけを見ると、前年よりも微増しているが、レジャーとして旅行に行きたいという客の要望が増えているわけではないため、全体としては変わらない。

	タクシー運転手	販売量の動き	・売上は前年比100%で推移しているものの、例年にはないスポット要因での押し上げによる部分が大きく、堅調とは言い難い。
	タクシー運転手	販売量の動き	・1月に入ってからは雪が多く、寒かったため、3か月前と比較すると売上は約8%増えている。しかし、天候が良い日には売上の下がる傾向がみられたことから、売上が伸びたのは雪が降ったおかげであり、全体としては変わらない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・思ったよりも受注量が伸びておらず、前年実績とほぼ同じで、変化がみられなかった。
	通信会社（社員）	お客様の様子	・客の消費意欲が上向かないのは元より、市場動向も改善の傾向がみられない。北海道の市況は依然として低迷しているというのが業界の見方となっている。
	通信会社（企画担当）	単価の動き	・携帯電話の料金やその他の提供条件に関する総務省のタスクフォースの影響で、最後のキャッシュバック合戦が過熱している。販売量は増えたものの、市内を中心に過度な割引となっている。
	パチンコ店（役員）	単価の動き	・原油価格が安くなったことが製造業や運送業には追い風になっている。一方で、建設業については一時期の勢いが全く感じられない。業種によるばらつきがみられるため、全体としては変わらないままである。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・3か月前よりも売上が減少しているが、前年とはほぼ同じであり、景気が下向いているとまではいえない。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・年末に集中して来客数が増えた分、年明け以降の来客数が落ち込んでいる。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・ここ3か月、客の様子が変わっておらず、閉そく感が漂っている。
	住宅販売会社（役員）	それ以外	・新規分譲マンションの発売に向けて、見込み客を集めているが、その状況は悪くもなく良くもなく、方向性に乏しい状況である。
やや悪くなっている	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・初売りについては前年を上回って推移した。セールについても前年を上回って推移していたが、月後半に入り、悪天候が続いたせいで急激に売上が落ち込んでいる。来客数の減少傾向から抜け出せず、苦戦が続いている状況にある。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・正月三が日はある程度の売上となったが、その後は例年とおりの動きに戻ってこない。元々、当地は雪の少ない地域であるが、今年は暖冬で例年よりも雪が更に少ないため、道路が走りやすく、結果的に客が都心部のスーパーに流れている。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・中国人による爆買いも若干みられるが、顧客については明らかな買い控えがみられ、やはり悪くなっているといわざるえない状況にある。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・冬季の閑散期対策として、今年から週1度の定休日を設けたことで、営業日数が前年よりも減少しているため、単純に比較はできないが、全体売上は前年比5%増とまずまずであった。ただ、3か月前との比較ではやや悪くなっている。平日と週末で客層は異なるが、昼はビジネスマン、夜は外国人の客が目立った。
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・12～1月は年間でも観光客数の少ない時期であるため、上期や10月と比べて航空機の供給座席数が減少している。そうしたなか、荒天による欠航が増えており、旅客数が前年よりも減少している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・1月は雪の日が少なかったため、タクシーの利用客が前年よりも減っている。また、ドライバー不足でタクシーの稼働も落ちており、会社の売上は前年を大きく下回った。
	タクシー運転手	販売量の動き	・高齢化に伴う社員数の減少に歯止めがかからない。そのため、売上の減少が続いている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・前年と比べて5%ほど来客数が減少している。同業組合の新年交流会においても1月の客足はあまり良くないとコメントが多かった。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・厳冬期を迎え、物流の動きが停滞しているうえ、フェリーの欠航回数が増加している。

	悪く なっている	百貨店（売場主 任）	来客数の動き	・1月前半は暖かい日が続いたが、後半は大雪の日が多く、道路状況も悪かったため、来客数が減少した。また、前年から冬物衣料のコートの動きが悪かったが、セールが始まって販売量が伸びてこない。コートの売上は前年比80%台となっており、紳士物、婦人物とも厳しい状況にある。ただ、物産催事については、まずまずの集客がみられ、前年並みの売上をキープできている。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	-	-	-
(北海道)	変わらない	家具製造業（経 営者）	受注量や販売量 の動き	・首都圏を中心とする大都市圏での受注は堅調に推移している。しかし、地方都市では低調が続いている。
		輸送業（営業担 当）	取引先の様子	・医薬品、飲料品、紙製品の生産は順調である。また、道内での生乳生産量が前年を上回っていることで、生クリームやチーズ向けの原料乳をバターや脱脂粉乳向けに振り分けており、それらの製品在庫が増加している。
		輸送業（支店 長）	受注量や販売量 の動き	・冬場になり輸送量が落ち込んでいるが、想定内の減少幅に収まっている。また、仕事量は減っているものの、燃料価格が下がっていることで救われている面がある。
		金融業（従業 員）	取引先の様子	・観光関連業種が好調を持続する一方で、公共事業の減少から建設関連業種の業況が低調である。暖冬などの影響から個人消費が伸びを欠くなど、業種により好不調にばらつきがある状況は変わらず、3か月前と比べて大きな変化はみられない。
		司法書士	取引先の様子	・冬季という時期的な問題もあり、土地や建物の不動産取引、建物の建築などが停滞気味である。一方、北海道新幹線の開業による効果は一部の業種のみに限られ、不動産取引や建築に関連した業種においてはあまり変化がみられない。
		司法書士	取引先の様子	・中国経済の鈍化、原油価格の低下などを理由とした株価の落ち込みが激しく、景気回復の実感や兆しを感じることができない。また、冬季という季節要因もあり、不動産取引は低迷している。補正予算の成立も景気回復には結び付いていないような状況である。
		コピーサービ ス業（従業員）	取引先の様子	・設備投資の動きが鈍い。3月に向けての予算採りも例年並みのようである。
		その他サービ ス業〔建設機 械リース〕（支 店長）	取引先の様子	・燃料価格の下落というプラス要因はあるが、設備投資意欲の回復までは実感できていない。
		その他サービ ス業〔建設機 械レンタル〕（ 総務担当）	受注量や販売量 の動き	・売上が前年比91～92%の状況が続いている。
	やや悪く なっている	食品製造業（ 従業員）	受注量や販売量 の動き	・販売量が3か月前と比べて減ってきている。前年と比較しても減少している。
		建設業（従業 員）	取引先の様子	・改正耐震改修促進法による診断結果の報告期限が3年延期されたことで、補強工事の着手に猶予期間が生じたため、いくつかの旅館などが工事の発注予定を見合わせている。
		建設業（従業 員）	受注量や販売量 の動き	・公共工事の減少に伴い、完工高が減少傾向にある。
		通信業（営業担 当）	受注価格や販売 価格の動き	・ここしばらくは途絶えていたユーザーからの値下げ交渉の機会が増加している。また、交渉額の値下げ幅に拡大傾向がみられるため、全体としてはやや悪くなっている。
		その他非製造業 〔鋼材卸売〕 （役員）	受注量や販売量 の動き	・1月は稼働日数減少の影響があるものの、3か月前と比べると、客先への設備案件が約90%の減少、そのほかの商材も約30%の減少と奮わず、全体で40%の減少に終わり、非常に厳しい状況であった。
	悪く なっている			
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
(北海道)	やや良く なっている	職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数が前年を3.4%上回ったほか、月間有効求人数も前年を5.0%上回り、5か月連続で前年を上回った。

変わらない	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・官公庁から受託している若年者に向けた就職支援対策において、以前よりも就職率が上がってきている。また、就職支援セミナー参加者の就職率も上がってきており、企業の求人ニーズの高さがうかがえる。さらに、派遣先企業から、現在、派遣している人材を採用したいとの申出も増えており、企業が人材不足への対応として、すでに使っている人材で、一定のスキルを有する人材を囲い込む動きがみられる。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	それ以外	・前々年から顕在化してきた人手不足が現在も続いている。ただ、最近の状況として、求人と求職双方のミスマッチが影響して有効求人倍率が高くなっている面がある。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	採用者数の動き	・全体的に求人件数は増えている。特に、なり手不足の正社員系の求人が、建設、運輸、介護、飲食などの業種で増加傾向にある。
	職業安定所(職員)	採用者数の動き	・求人倍率は上昇しているが、就職件数は伸びていないため、全体としては変わらない。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・月間有効求人数は71か月連続で前年を上回り、月間有効求職者数が50か月連続で前年を上回った。また、新規求人のうち、派遣は前年から6.1%減少したが、正社員が前年から8.2%、パートが前年から16.1%増加し、全体で7.6%増加した。さらに、新規高等学校卒業生の管内求人数が前年から17.4%増加した。
やや悪くなっている	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・10~12月の累計で新規求職者数が前年を1.8%下回っている。有効求職者数も同様に前年を7.6%下回っている。また、有効求人倍率も前月に引き続き過去最高の1.00倍となっている。
	新聞社[求人 広告](担当者)	求人数の動き	・募集広告の売上が前年を5%強下回った。特に、医療系求人の落ち込みが大きく、前年から34%の減少であった。また、派遣も10%以上減少した。一方、運輸、不動産が前年から4割増となったものの、全体の落ち込みをカバーできなかった。
悪くなっている	-	-	-